

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第8回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年11月5日(木) 午後4時00分～午後5時40分	
会場	練馬区役所本庁舎11階 1102会議室	
出席者	委員	生越詔二、石原正義、佐藤宏、委員正吾、一ノ瀬秀治、山崎高志 濱元雅俊、相田真人、小林昭文、(敬称略)
	その他	教育出版
	事務局	栗原健 指導主事

### 1 挨拶

#### アドバイザー

テレビで石川遼選手を育てたコーチの取り組みが出ていた。なぜ、ああいう人格ができたのか。練習のときから、すべて自己決定をさせ、決して教えていない。本部会の検討している心の教育に関連して、非常に具体的なわかりやすい映像だった。

### 2 協議

#### 委員

では今日の協議に入る。初めに各重点項目の資料について、話を聞きたい。

#### 委員

最初に、規範意識。Ⅰ期は約束やきまりが守れる子供。1年は、学校の約束やきまりを守り、わがままをおさえて、みんなで使う物を大切にすること。現行の4-1の道徳を参考にした。2年は少し範囲を広げて公共の場ということ、また人に迷惑をかけないと考えた。3年は学校に限らず、約束や社会のきまりに広げて公共物とした。4年も活動範囲が広がり、約束や社会のきまりの大切さをわかることも重点において、公共物と公共施設というふうを増やした。Ⅱ期で法やきまりを守り、自他の権利を大切にするとともに、義務を果たせる子供。5年は、自他の権利を大切に、自分の義務を果たすことが大切であることがわかること。6年では、公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にするとともに進んで義務を果たす子供。中1は、法やきまりが自他の権利を守るものであることがわかって、法やきまりのもとに進んで義務を果たす子供とした。Ⅲ期は、法やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を高めようとする子供。中2では、法やきまりの意義を理解し、義務を遵守して、社会の秩序と規律の維持に努める子供。また、権利と義務を正しく理解し、義務を確実に果たす子供とした。最後はほとんど同じだが、法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、社会の秩序と規律を高めるように努める子供。また、自他の権利を重んじ、義務を確実に果たして、住みよい社会をつくらうとする子供。やっつけて思ったのは、2年ごとでもいいのかと。

#### 委員

生命尊重で自分も発表するが、2年ごと、あるいはひとくくりにしてしまった。

#### 事務局

そのことについてはすぐ結論を出すのではなく、意見を出したほうがいい。重点事項によって違う。生命尊重は区切りにくい、思いやりだったら、相手を誰にするのかで区切れるかもしれない。規範意識も区切れるかもしれない。

#### 委員

項目によると思うが、その前に学期ごとに育てたい子供像があって、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と出している。1年～4年まで、個別の小見出しのような形の目標を設定してもいい。

#### 委員

生命尊重について。育てたい子供像は、命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する子供。各期で育てたい子供像も何か理解したりわかって、行動するという2段階構成の文言を考えた。

Ⅰ期は自分が生きていることを実感し、生命あるすべてのものを大切にする行動ができる子供。各学年は二つに分けて、生活科の学習が1、2年なので一緒にした。飼育や栽培の体験、周囲の人の支えがあることを理解する。支えの理解を通して生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする心をもった子供に育てたいとした。3、4年もまとめた。高齢者とか障害のある方とふれあいのある学校が多いと思い、人とのふれあいを通じて生きる喜びなどを感じとって、生命あるすべてのものを大切にするとした。Ⅱ期は生命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を大切にするとした。各学年のところをひとまとまりにしまったので、Ⅱ期の文言とほぼ同じ。考えられる学習は、理科は生命のつながりの理解とか、社会科、国語科でも平和の学習等が取り入れられるのではないかと。Ⅲ期は、生命の尊さを理解して、自他の生命を尊重し、大切にする。ここに態度を身に付けたと入れたが、Ⅱ期よりも後退しているのか前進しているのかわからなくなってしまったので意見を聞かせていただきたい。こちらもⅢ期と8、9年は同じにした。

#### 委員

率直に、Ⅱ期とⅢ期は各期と各学年のものが同じなのは、どうなのか。1学年で子供は成長するから、その視点で子供像を考えていけないものか。

#### 委員

できないことはない。今度、道徳授業地区公開講座で生命尊重をやるが、それぞれに課題を作っている。1年だと身近なところから入るし、3年は社会的にもう少し広げてという違いはある。

#### 委員

特に5、6年、中1があって、そこがⅡ期でまとまっているが、同じ3年間の成長の中でもそれなりに5、6、7と成長してきた中での何か一つあるといい。

#### 事務局

道徳性の諸様相の視点から考えると、判断とか態度と並べて考えるものなのか。それとも関

心が意欲へと高まり、それが習慣化したものとしての態度ととらえれば、態度はある意味では最終形態のかなり進んだ部分という捉えもできる。

#### 委員

どう定義するか。道徳的態度的意味なのか。本当にできるという態度なのかによって違う。

#### 委員

ここですぐ結論を出すのではなく、少し検討を要したい。

#### アドバイザー

基本的な考え方として生命の尊重は、理解よりも、生命そのもの、生きていること自体を論理で説明できない部分があるので、気づきとか感覚を養いたい。命そのものの捉え方についても、自分だけの命ではない、人とつながっている部分もある。中学校にいくと、絶対性みたいなところに集約される。どうとらえるか、その気づきとか、感性を豊かにするベースにあるものがいくつか分かれている。いくつに分けるかは別にしても、それを参考にステップアップを考えるといい。命あるものの意味が、学年ごとに上がってくる。認知能力の発達とともに広がりを見せてくる、あるいは深まってくることを背景におきながら、「心のノート」に出ている観点を当てはめると、わかりやすくなる。命の有限性と言うと難しいけれども、限りある命はどのくらいになったら認識できるのかをイメージして、こういうことも加味しようという発想でいいのではないか。

#### 委員

自尊感情について。今まで部会で確認できているところを緑で、今回考えたのは赤で書いた。私はまだこの間提案したことにこだわっていて、五つの項目があって発達段階を考えたときに、文科省では規範意識から入るが、自尊感情から入るのがいいのでは。重点項目としてはすべての学年ですべて扱う。中学生には子供という言い方に抵抗があって、人にした。各期で育てたい子供像、Ⅰ期は他者への信頼関係を持ち、自分の居場所を見つけられる人。1年は、担任やクラスメートと良い関係を作ることができ、集団への帰属意識を持つ人。要は自分の身の周りにいる人とうまくやっという気持ち、信頼感が大事。これを徹底的に授業時間内、特活、総合などでやったり、主な学習活動でいろいろな遊びを通してつくっていく。2年は、人として行ってはならないことという言葉、やはりポイントかと思う。それを意識しながら、共同作業にこだわりたい。3年は、1、2年の積み重ねの中でやはり自分も他人も尊重できる子供像。4年は、第2段階に向けて、振り返りをやらせたい。自他の尊重の意識を持ち、自分の良さに気づこうとする。自己肯定感をおさえていきたい。Ⅱ期は自分の良さに気づき、目標を持って努力していこうとする人。文科省等いろいろなものを見たが、もう少し地に足の着いた目標をつくりたいと思った。5年は自分の足りないところに気づいて改善していく目を育てたい。そのために目標を持って、具体策を出して行動していくのが最終的なステップ。これをさまざまな場面でやらせたい。6年ではよりよい自分をつくっていく。将来的なことも考えながら目標の立て方をもう少し洗練させたい。7年目は実現していくために努力する行動のところを打ち出したい。Ⅲ期は、自分の良さを伸ばし、自己実現しようとする人。これは育てたい子

供像全体で、自分の良さに気づく自己肯定感と自己決定力というツールを身に付けるところがあるので、そこに絞ってやりたい。8年目は、良さを伸ばすために、課題に正面から向き合える人。スパイラル的に同じところをやりながらグルグル上に登っていくようなイメージ。9年目は、自らを見つめ、自己実現のためにやり抜こうとする意思を持った人と組んだ。

#### 委員

一つの目標に対してスパイラルで繰り返し取り上げながら、だんだん伸びていくというふうを考えるのは大事。「人」という文言については、いずれ決めなければいけない。

#### アドバイザー

人として行ってはならないこと2にあるが、座り場所としては小さい子をイメージしていい。規範意識のところ、人間として、してよいことと行ってはいけないことというのが規範意識の最たるものとして強調されている。これも低学年にわざとおいている。自尊感情のところに入れてうまく規範意識とつながれば、これは一つの着眼点。自尊感情のもう一つのポイントは、良いところ・悪いところ、あるがままの自分を受け入れることができる力。そうすると、逆境に強くなる。良いことも悪いこともあると認知しているから、その前段にある認識が自己のありのままの姿を受け止める。自分自身が受け入れることができれば落ち込まないですむ。そういう意味で、これはたいへん重要なところ。

#### 委員

私も規範意識については、これを立てるときに気にした。小1で入ったときにうまく学校生活ができないという現状があって、強調されているのではないか。そうすると、規範意識の1年目はルールをきちんと守ろうとか、知ろうというようなことをしっかりおさえればいい。

#### 委員

思いやりについて。各期で育てたい子供像で、すべて体験活動を通じてということ（ ）の中に具体的な体験活動を入れて、相手のことを思いやり、親切にし、いたわり、励ますことができる子供。Ⅱ期が体験活動を通じて、人の優しさを感じそれを素直に受け止め、今日の自分があるのは多くの人々によって支えられていることに気づける子供。体験活動を通じて、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、ともにかけがえのない人間であることを自覚できる子供とした。学年ごとに育てたい子供、1年のスタートだから入学式、運動会、遠足を通して友達存在を認識する。自分のできることを進んで行う。4年は何かの体験活動を通して、人のできないことで自分ががんばれることを進んで行う。運動会や移動教室が5年、6年にあるということで、人に助けられたこと、うれしかったことを素直に伝えることができるようにしよう。7年目、運動会や臨海学校を通して最後までがんばれることを実感する。これは中1ですごく重要な体験。8年でスキー教室があるので、自分以外の人の能力の素晴らしさを認識する。9年で、運動会、修学旅行を通して、自分の能力を何ができるかを自覚し、お互いの素晴らしさを認識することを学習していこう。全学期を通じた学習は、体験を通し、自分のできることとできないことを認識し、人の素晴らしさ、自分の素晴らしさを確認することで、感謝の気持ち、思いやりの心を持つことの大切さを知ることができるということ。指導の重点は、

ほとんど一ノ瀬先生のだが、9番目として多くの人から感謝される行動をとれるようにする。

#### 事務局

思いやりを示す相手について、例えばⅡ期の5、6年でここまで広げるか、下の学年のお世話をする学年ということを考えて、幼い人とするとも考えられるがどうか。

#### 委員

道徳の資料では5、6年は誰に対しても、となっていた。それがあるときは1年生で、あるときは下学年全体。小学校の副読本の資料等を見ると、3、4年くらいで友達関係がすごくできるので、友情が扱われることが多い。1年生は本当に自分のすぐ身近な人が多いという印象。

#### 事務局

就学前の子供には思いやりをと言っても、発達段階から考えるとたくさんは要求できない。先ほどの自尊感情の、集団への帰属意識も、1年で求められるものなのか。

#### 委員

1年で自分が1年1組のメンバーの一人だという意識は1年間かかって育つ。

#### 委員

それであれば、1年生の目標にしてもいいのか。

#### アドバイザー

基本的に思いやりは、どの子供も持っているという前提で考える。そこに気づき、広げ、深めるといった基本的な視座を持っていることが、発達段階を考えるととぶれない方向性。人の優しさというのが今非常に使われる。この優しさをここで文言として載せると、いろいろな意味で使われるので、誤解されない工夫ができるといい。Ⅲ期も、今介護している人がたくさんいる。思うようにいかなくて、自分に対して、人に対して当たる人が非常に多いが、大変感謝される人もいる。感謝される人の共通項は、本当に親身になって、自分のためではないということが感じ取れた場合に非常に感謝する。この3番目の文言表現はもう少し工夫したほうがいい。思いやりは、東洋思想の根底にある儒教の考え方だから、それを広げ深めるといった、先ほどの基本的な視座から見ていくとぶれなくてすむ。

#### 委員

五つ目の社会連帯について。前回話し合ったものを参考にして、育てたい子供像を考えた。まず、Ⅰ期が学校の人々を愛し、協力して楽しく活動できる。それから集団における自他の役割を自覚し、よりよい集団作りの責任を果たす。三つ目が、練馬区や郷土の伝統と文化を大切にするとともに、郷土を愛する心をもつ。各学年、1年は先生を敬愛し、学校で楽しく活動できる。2年は、学校の人々を敬愛し、互いに協力して楽しく活動できる。3年、集団での自分の役割を自覚し、協力して活動できるとともに、練馬区が3年の学習対象になるので、その伝統と文化を大切にできるところまで持っていきたい。4年では、自他の役割を自覚し、進んで

責任を果たす。一般の道徳の資料では、5、6年のところにきているが、Ⅲ期制なら4年で意識させたい。ここで郷土とは練馬区に限らず、東京、練馬区周辺を含めた意味。

Ⅱ期は、人と人とのつながりの大切さを理解し、地域社会の一員として、社会の秩序を守り、尊重して生活できる。二つ目が多種多様な伝統や文化を大切にし、異文化理解に努め、日本人として、世界の人々との親善に努める。5年は、人と人とのつながりを大切にし、社会の秩序を守って生活できる。さらに、郷土や我が国の伝統や文化を大切にし、先人の努力を尊重する。ここで言う郷土、我が国は日本、全国的にそういった目を広げていきたいという思いから書いた。6年は社会連帯についての理解を深め、社会の秩序を守って生活できる。同時に、郷土や我が国の伝統と文化を愛する心を持ち、異文化理解に努める。7年目は、地域社会の一員として、社会の秩序を尊重し、守って生活できる。単に、社会秩序とか社会のきまりを守ればいいのではなく、きちんと理解を深めて、その大切さを考えた上で守ることが大切だと自覚して生活できれば。様々な伝統や文化を大切に作る心を持ち、世界の人々との親善に努める。先ほどが異文化だったので、今回は世界の人々との親善あたりまで持っていけたら。

Ⅲ期は人々や地域社会とのつながりを尊重して、よりよい社会の実現と発展に努める。日本人としての誇りをもって、国家の発展に努め、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする。8年は、集団や地域社会向上のため、集団や社会の一員として役割と責任を自覚し、人と人とのつながりを大切にする。世界の平和と人類の幸福への貢献について理解を深め、日本人として国家の発展に努めようとする。9年目は、よりよい社会の実現と発展のために、社会の一員として人々とのつながりや社会連帯について理解を深める。日本人としての誇りを持ち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする。理想や育てたい児童像ばかりが大きくなってしまっていて、実際はどうなのか。

#### 委員

練馬郷土資料館の見学は、比較的3、4年。区内めぐりのときに、コースに入れている学校が多いと聞いている。4年になると、東京都を扱うので足を遠くまで広げている。ほかに比べると、たくさん盛り込んでしまったので、もっと削ったほうがいいのかと。

#### 部長

個人的には、ここまであってもいい感じもする。中学校になると社会科などでも相当いろいろなことを習っていく。地理とか歴史、公民とかで、世界平和についてもかなりやってくるので、こういう部分があってもいい。

#### 委員

育てたい子供像があって、その集大成がⅢ期にくるから関係ある。社会連帯だと日本人の誇りとか、世界の平和は理想だが、義務教育の終わりとして一つの目標になる気はする。

#### アドバイザー

I、II、III期に分けたこれは、ほかの項目と形式的に合わせる必要がある。II期、III期を読んでもみると、非常に抽象度が高い。格調が高いのはいいが、現実の子供を目の前にして、どこまでという立場も大事にしたい。社会連帯は捉え方によると、一体感がないと生まれてこない。

学校行事は何のためにあるか、何々中学校の一員だということが感性や感覚などに取り込まれる。だから全体でやる行事はたいへん教育的な意味がある。一体感があって連帯感につながる。子供の発達の視点から見ると、自分が生まれ育ったところについては素朴に好きという感情を持つ。そのことを成長とともに実感していく段階があるだろう。先ほどの自尊感情と同じだが、そのことが自分たちの住んでいる町の良さ、ありのままに認めていいところがあるという認識から、さらに誇りが持てるようになる。そういう成長のプロセスを考えた発想もできる。学年ごとに育てたい子供の場合は、素朴にどう成長していくかを意識して提示すると一貫性が出る。いろいろなものを盛り込むと、結局言いたいことがわからなくなってしまう。コンセプトに何をベースにするかをおけば自主性が出てくる気がする。

#### 委員

たしかに要素を絞らないといけない。今日のものを一つにまとめて、修正意見を加味して、もう一度次回に一つのものにしていく。

#### 委員

次回だともう間に合わないので、私がそれをやる。

#### 事務局

2番目全学習期を通じて学習する内容について。まず、本部会にこの項目は必要なのかどうか。当初、事務局でつくったときの考え方は、重点項目が規範意識から始まって五つあった。その重点項目に入らないもので、挙げておくべきことがあるのではないかということで、この枠を作った。ところが、ほかの部会はそれとは違う考えになっている。例えば、キャリア教育の部会では、一般的に言われているキャリア教育の視点では、四つの視点で考えられているが、ここでは重視する指導項目、自己肯定感とか、望ましい勤労観というので整理している。「全学習期を通じて学習する内容」の枠にある人間関係形成能力を高める学習を①としたら、①という数字がこの左の重点項目の表に入ってくるようなつくりになっている。表現力の部会では語い力が「全学習期を通じて学習する内容」に出ている。国語の考え方と似ていて、話す・聞く、読む、書くと別に言語事項があって、言語事項はほかの3領域の中で指導していくというのと似ている考え方。本部会ではどうなのかを、意見をいただきたい。五つ挙げたが、そのほかで上げるべき視点があるのか。

#### アドバイザー

今の説明を聞くと、道徳も心の部会も考え方としてはキャリア教育プランに準じて考えることができる。重点項目五つは、実は本体は一体のもの。全学習活動を通じて学習する中身は指導要領の内容が四つに整理されている。その項目でいいのではないか。例えば、望ましい自己のあり方についてというのは、全期間やっている。どの項目も出ているものみんな道徳はやっている。二つ目は、望ましい人間関係のあり方。3番目の視点と言われるものは、望ましい自己のあり方といったようなくくりができると思う。四つ目は個と団体のあり方についてどう考えるか。どういう文言にするかは検討するにしても、あえて道徳の内容の1の視点というふうに出さなくてもいい。

## 事務局

学習指導要領でいう道徳の視点から言えば、さらに内容項目ごとに整理することになる。あまりそれをやりすぎると、道徳や道徳の時間に特化した活動しか思いつかなくなってしまう。大きく四つの視点でという分け方のほうが、私はいいと思う。

## アドバイザー

学習指導要領に示された道徳の内容は、教育活動全体でやるのが前提。

## 委員

3番目で本部会の検討の視点、目指す子供像等について。12月までにこの報告書の原案を出さなければいけない。7回分までの要点録を見ながら、小中一貫に関する方針にもう一度目を通し、いろいろな先行事例等を踏まえて、私がまとめた。まず基本的な考え方では区の方針と、なぜ一貫教育がここで必要なのか、なぜ心をはぐくむ上で必要なのかをまとめた。効果1～5は方針を踏まえて、豊かな心の育成という意味に置き換えて作った。とくに子供たちの体験が少なくなっており、一貫になれば体験活動を増やすことができるのではないかと。そこから豊かな心をはぐくむことができるのではないかとという形で書いた。(2)の本部会の検討の視点、これは話し合ってきたところ。①は心の教育の進め方で、道徳の授業の時間だけではなく全教育活動を通してやっていくということ。それと学校の教育だけではなく、これからは家庭、地域の道徳力も高めていかなければいけない、共同作業でやっていかなければいけないと述べた。それを図式化したものがこれ。豊かな心は本部会の核となること。豊かな心とは、人としてより良い生き方を求め、それを実践していこうとする心。ということは、より良い生き方とは何なのか。今までやってきたいろいろな心を持ちながら生きていくこと。豊かな心と言っても、幅広い。四つの主として自分自身に関することとか、他の人とかかわり、自然崇高とかがある。さらに内容項目に分けるとたくさんある。本部会では自尊感情に重きをおいて研究したい。それで1、2、3、4のところ、自尊感情、思いやり、生命、規範、社会連帯と入れられている。区の方針には、情報モラルとあり、これも一つ起こすのではなく、道徳、総合的、教科で言うと社会科とか技術科でやっていきたい。③で練馬区として豊かな心の育成ができないのかという話もあった。あまり特化してしまうと、一般的なものからずれるが、せっかくだから地域の資料や取り組みを利用するのも手。『練馬の子ら』『すずしろ』、『健やかに育てる』『ねりまのかんきょう』、『練馬の子供議会』等がある。それと、指導体制。小学校では学級担任制で、中学校は教科担任制。これは今後の検討事項になる。

(3)重視する指導項目は5点に関して、まず定義づけ。その心を定義した上で、どういう子供に育てたいのかを書いた。規範意識に関しては、あえて「仕の掟」をここで取り入れたい。「心のノート」にも出ている。そして、先ほど話題になった「人として、してはいけないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべきことがら」。これはあえて強調して入れた。もちろんこれだけではなく、あとは法規的なもの、マナーや礼儀なども入れたい。生命尊重に関しては、時代背景を踏まえて生命の尊さ。まず自分と相手、つまり人間同士を対象にし、それ以外にもできれば動植物、生あるものすべてに関しての思いやりとか生命の大切さも入れたい。自尊感情に関して、区の基礎調査に練馬区の中学生は70%前後が意欲的に生活しているらし



いが、無力群という無力的な何をやってもだめかなとかいう子供たちが、男子の 50%、女子では 75%が、もう勉強なんかいいやという感じでとらえているという、重大な資料があった。それを根拠に、自尊感情を取り上げていきたい。あとこの前の話で、「私はこの学校でがんばる」という言葉があったのでそれを入れた。思いやりの心の定義づけは、困っている人が目に入ったら手を差し伸べる。人だけではなくて動植物、最終的にそこまでいくのが思いやりの心かと思った。この前、本校の道徳授業地区公開講座で「江戸しぐさ」をやった。わかりやすくいい指導だったので、練馬とは限らず江戸、東京に広げてこれも取り入れたい。社会連帯に関しては、練馬区は都市化の中でもまだまだ連帯を強めていこうという取り組みが結構ある。だから、練馬区に生まれて育ったことをいいなと思えるような子供を、はぐくんでいきたい。カは、ねらいを踏まえた全学習期を通じて指導する内容。今までの5点以外に、心の教育、道徳教育においてはほかにもたくさんの項目、価値を教えて、はぐくんでいかなければいけない。②教育課程上の位置付けは、道徳の時間を中心に全教育課程および家庭、地域の連携においてやっていくこと。それと本分科会で重点にしたのは、育てたい子供像を明確にして各期でやって、学年を通して指導していくカリキュラムをきちんとつくっていきたい。(4)の目指す子供像は、この前いただいたものをまとめただけ。②の各学習期における目指す子供像は、今日のものに差し替える。次の7、8ページ目で目指す子供像を一つにまとめて、8ページ目には、このような形でやっていくというカリキュラムを出そうと思った。ページ数は偶数で増やしても大丈夫。8ページにおさえるか、10ページにするか。皆さんからいただいた学年ごとに育てたい子供像も入れるということで、作成してみる。

#### 委員

今年度は概要のような形で中間報告を出して、来年度はもっと細かい具体的なものを出すと聞いているが、今年出したものに来年度は拘束されるのか。

#### 事務局

大丈夫。絶対ずらしてはいけないのは、やはり重点とする五つの指導事項。

#### 委員

社会連帯が多いのでコンパクトにしてほしい。先ほどの表組みの中で「子供」、「人」とあったが、そこは統一したい。方法としては、「なんとかする」で止めてしまう方法もあるが、「子供」でいくことにする。来週の月曜か火曜くらいに、直した原稿を入れる。19日くらいまでに赤を入れて送ってほしい。また12月1日に皆さんと検討したい。

#### アドバイザー

今日検討していなかった主な学習活動というか、学年ごとの指導の重点も示すのか。

#### 委員

今日はやっていないので、そこまでは出さない。

**事務局**

主な学習活動については、いわゆる教育課程上の位置付け、教科等が見えてくると本当はいいが、難しい。例示という形では出せるかもしれない。

**部長**

学年ごとに育てたい子供像は、1年ごとの方と2年の方といた。それは、そのまままとめ、やっている中で、今後また変えていってもいい。

**アドバイザー**

一ノ瀬先生が、これまでの議論を非常にコンパクトにまとめてくれた。私自身も整理をさせていただいた。先生方もたいへん細かいのを書かれた。この積み重ねが、揺るがしてはいけない部分を残していく。これまでの取り組みに敬意を表したい。それからこれまでのものを踏まえて次年度へということで、私が最後に質問した学習活動とか指導の重点。これを検討すると、イメージがだんだん出てくる気がする。今回の議論、今年度の議論は必ずつながるということ、私自身も感じている。たいへんお疲れさまでした。